

# 令和7年度 学校自己評価システムシート ( 県立大宮工業高等学校 定時制課程 )

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

目指す学校像	心豊かな人間を育成し、生徒の夢を実現する学校 ～小中学生に楽しさと憧れを！ 在校生に好奇心と自信を！ 卒業生に豊かさと誇りを！
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>学習意欲と基礎学力の向上を図る。</li> <li>基本的生活習慣の確立を図る。</li> <li>自己の適性を知り、希望進路を実現する。</li> <li>地域社会に開かれた学校づくりに努める。</li> </ol>

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。  
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	学校関係者	7名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	8名

学校自己評価				学校関係者評価			
年度目標				年度評価 ( 3月16日 現在 )			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>【現状】 生徒には「学びたい」「できるようにしたい」という意欲が見られ、授業中の規律も安定している。一方で、学習の進め方や自分に合った学び方を身につけている生徒は少なく、中学校段階の学習内容の定着に差があり、学力面での個人差が大きい。</p> <p>【課題】 学習意欲はあるものの、「なぜ学ぶのか」「どう改善すべきか」を自ら考える力が弱く、目的や方法が不明確なまま学習に取り組む生徒が多い。その結果、学習習慣が定着せず、理解や知識の定着にもつながっていない。今後は、課題を把握し、目的を持って学びを継続できるよう、目標遂行力・課題解決力・自己活用力の育成が求められる。</p>	<p>【学習意欲の向上】 学習に対して目的意識や目標をもって取り組んでいるか(自己活用力・目標遂行力)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業内で学習の目的や見通しを立て、振り返りを取り入れた授業改善を行い、生徒が「なぜ学ぶか」を意識できるようにする。</li> <li>教務部が中心の校内研修会(授業改善・ICT活用)を通じて、学習意欲を引き出す授業の工夫や実践事例を教員間で共有する。</li> <li>5つの力成長ログを活用し、学期ごとに現状理解と振り返りの機会を設ける。</li> </ul>	<p>【主観・意識に関する指標】</p> <p>①「学習に目標をもって取り組んでいる」と回答した生徒の割合</p> <p>【客観的指標】</p> <p>②基礎学力判断テストで、目標をもち取り組んだ生徒のうち、前回より得点が向上した割合(伸び率)</p> <p>【自己評価における力の変容】</p> <p>③「自己活用力」「目標遂行力」が向上したと回答した生徒の割合</p> <p>④振り返りで学習の目的意識や目標設定に関する記述内容に具体性と前向きさが見られるか</p>	<p>①目標をもつ(第1回:68%→第2回:68%)</p> <p>②本年度未実施</p> <p>③自己活用力 63.3%・目標遂行力 66.7%の増加</p> <p>④「目標を決めて、それに向けて何をするべきか」を考えて行動するようにした。少しずつ達成できるようになってきた」という回答があった。</p>	B	<p>■ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目標をもつ生徒の割合が横ばいであり、全体への定着に課題がある。</li> <li>客観的データによる成果検証ができていない。</li> </ul> <p>■ 改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業やHRにおいて目標設定と振り返りの機会を継続的に設け、目的意識をもった学習の定着を図る。</li> <li>基礎学力の把握については、実施方法や時期を検討し、可能な範囲で客観的データに基づく成果検証を行う。</li> </ul>
		<p>【基礎学力の向上】 小中学校範囲を含む基礎的な学力が定着しているか(課題解決力)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科でつまづきやすい内容を明確にし、丁寧な解説や教材の工夫を通じて、基礎事項の理解と定着を図る。</li> <li>教務部中心で基礎学力判断テストを実施し、結果をもとに理解傾向を分析し、指導に活かす。</li> <li>1・2年次は、0時限目や少人数・習熟度別学習で基礎事項の理解を強化する。</li> <li>3・4年次は、工業実習や課題研究を通じて、基礎力の応用力を高める。</li> </ul>	<p>【主観・意識に関する指標】</p> <p>①0時限目の学び直しが役に立っている「学力が高まったと感じている」と回答した生徒の割合</p> <p>【客観的指標】</p> <p>②基礎学力判断テストで、前回比で得点が向上した生徒の割合(伸び率)</p> <p>③基礎水準(例:60%)に達した生徒の割合</p> <p>【自己評価における力の変容】</p> <p>④「課題解決力」が向上したと回答した生徒の割合</p> <p>⑤振り返りにおいて、課題への気づき、解決の工夫、学び直しの行動が具体的に記述されているか</p>	<p>①役に立つ(第1回:81%→第2回:78%)</p> <p>②学力の向上(第1回:89%→第2回:84%)</p> <p>③本年度未実施</p> <p>④48.3%の増加</p> <p>⑤「自作のデータがうまくいかなかったときでも、自らデータを作直して完成させた」という回答があった。</p>	B	<p>■ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>0時限目の学び直しの実感がやや低下している。</li> <li>自身の課題を把握し、解決案を考える課題解決力の向上が十分とはいえない。</li> </ul> <p>■ 改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>0時限目や1学年にける学び直しの内容を見直し、実態に応じた指導を行う。</li> <li>振り返りを充実させ、改善行動につなげる。</li> </ul>
2	<p>【現状】 多くの生徒がルールを守って行動し、学校生活には一定の秩序が保たれている。一方で、睡眠や登校リズム、スケジュール管理などの生活習慣が定着していない生徒が約2割おり、生活の安定に課題を抱えている。また、対人関係やコミュニケーションに苦手意識をもつ生徒もおり、自分の考えを伝えたり、他者と協力して行事や学習に参加したりすることが難しい傾向がある。</p> <p>【課題】 生徒が自身の生活リズムや心身の状態に気づき、言語化・調整しながら安定した生活を送れるようにする支援が求められる。また、自己表現や他者との協働を通じて、対人協働力や自己活用力を育む仕組みを、学習や行事に日常的に組み込んでいく必要がある。</p>	<p>【基本的生活習慣の確立】 基本的生活習慣を整え、安定した学校生活を継続できているか(自己活用力・目標遂行力)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年次やHRでの日常の声かけを通じた健康観察で、生活リズムや体調変化を把握する。</li> <li>生活の乱れが見られる生徒には、面談や家庭との連携を行い、必要に応じてSC・SSWなど外部機関と連携した個別支援を実施する。</li> <li>教務部・出欠状況の常時把握と、早期対応のための連絡体制の徹底</li> <li>生徒指導部:LHRや講話での啓発資料の活用による生活習慣の周知</li> <li>進路庶務部:進路活動と連動した生活管理能力の指導</li> <li>養護教諭:保健だより等による情報発信と、健康診断受診の促進支援</li> </ul>	<p>【主観・意識に関する指標】</p> <p>①「生活リズムを意識している」「遅刻や欠席を減らそうとしている」と回答した生徒の割合</p> <p>【客観的指標】</p> <p>②遅刻、欠席件数の減少または改善率(前年度・前学期との比較)</p> <p>③保健室来室記録等における安定傾向(例:来室頻度の減少)</p> <p>【自己評価における力の変容】</p> <p>④「自己活用力」「目標遂行力」が向上したと回答した生徒の割合</p> <p>⑤振り返りで生活習慣の改善や行動管理の工夫が具体的に記述されているか</p>	<p>①生活リズム(第1回:55%→第2回:49%)</p> <p>遅刻欠席(第1回:85%→第2回:76%)</p> <p>②欠席等割合(R6:12%→R7:16%)</p> <p>遅刻等割合(R6:7%→R7:3%)</p> <p>不登校割合(R6:23%→R7:30%)</p> <p>③来室者数(R6:64→R7:61)</p> <p>来室傾向:体調不良が減少し、ケガが増加</p> <p>④自己活用力 63.3%・目標遂行力 66.7%の増加</p> <p>⑤計画を立て、可視化し自己管理を行うなど、生活管理に関する工夫が記述されていた</p>	B	<p>■ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活リズム意識の低下と不登校割合の増加への対応が必要。</li> <li>主観評価と出欠データを結びつけた改善の仕組みづくりが課題。</li> </ul> <p>■ 改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出欠・来室状況を共有し、早期対応を徹底する。</li> <li>HR等での振り返りを継続し、家庭・関係機関と連携した支援を強化する。</li> </ul>
		<p>【集団との関わり】 自分の考えを整理して伝え、他者と協力して行事や授業に参加できているか(論理思考力・対人協働力)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業やHRでの意見発表やグループ活動で、思考の言語化と協働的な課題解決力を育成する。</li> <li>面談や5つの力成長ログで、考えや学びを整理・表現する機会を設ける。</li> <li>生徒指導部を中心に、異学年シヤッフルグループを編成し、行事やLHRでワークショップ型の協働活動を実施する。</li> <li>ワーク後に振り返りを行い、自分の関わり方を見直す機会とし、対人協働力の育成につなげる。</li> <li>体育祭・文化祭等での協働活動において、目的共有と役割分担を明確にし、生徒の主体的関与を促す。</li> <li>行事後に振り返りを実施し、集団内での自分の役割や関わり方を認識する機会を設ける。</li> </ul>	<p>【主観・意識に関する指標】</p> <p>①「自分の考えを相手に伝えられている」「他者と協力する場面があった」と回答した生徒の割合</p> <p>【自己評価における力の変容】</p> <p>②「論理思考力」「対人協働力」が向上したと回答した生徒の割合</p> <p>③振り返りやワークシート等において、自分の意見の整理・発信、他者との協力に関する具体的な行動や工夫が記述されているか</p> <p>【行動・記録に基づく客観的指標】</p> <p>④面談やワークシート等の記述内容において、自己表現や協働の様子が具体的に記述・整理されているか</p>	<p>①考え伝達(第1回:79%→第2回:70%)</p> <p>協力場面(第1回:87%→第2回:92%)</p> <p>②論理思考力 60%・対人協働力 63.3%増加</p> <p>③説明をできるように頭のなかで処理して、言葉を使ってまとめるようにする「文化祭で状況によって作業を分担し協力し合えた」という回答があった。</p> <p>④「理由をつけて説明する」「役割を意識して動く」「相手の意見を最後まで聞いてから話し合う」などの記述が見られた。</p>	B	<p>■ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己表現に関する実感の低下への対応。</li> <li>協働活動を「経験」にとどめず、思考の整理や言語化につなげる仕組みの強化。</li> </ul> <p>■ 改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業や行事後の振り返りを充実させ、考えを整理し言語化する機会を増やす。</li> <li>協働活動における役割や目的を明確にし、主体的な関与を促す取組を継続する。</li> </ul>
3	<p>【現状】 全学年でキャリア教育を実施し、生徒が将来を考えるきっかけは確保されている。一方で、情報過多の中で取捨選択に迷い、進路に悩む生徒も多い。活動が単発的で自己との関連が見えにくく、興味・関心・特性を進路に結びつける力が十分に育っていない。</p> <p>【課題】 生徒が自分の興味・関心・特性を理解し、将来の選択肢と結びつけて考えられる力の育成が必要である。そのためには、活動の目的と自己との関係を意識させる連続性のあるキャリア教育と、自己活用力・課題解決力・目標遂行力の育成を、年次・教科・分掌を越えて連携して進めていく必要がある。</p>	<p>【自己理解】 自分の興味・関心・特性を把握し、将来に向けた進路の方向性を考えることができるか(自己活用力)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活やLHR、保護者面談を通じて、生徒が自分の興味・関心を言語化する機会を提供する。</li> <li>5つの力成長ログ等を活用し、自身の特性に気づき、進路との接点を考える習慣を育成する。</li> <li>進路庶務部を中心とした定期的な進路希望調査や年次ごとのガイダンスを通じて、自己理解と社会理解を段階的に深める。</li> <li>SST、社会体験活動、職業人との交流を通じて、多様な価値観や働き方に触れる機会を提供する。</li> <li>自己活用力を高めるワークを実施し、自分の興味や適性を把握し、それを活かす視点を育てる。</li> </ul>	<p>【主観・意識に関する指標】</p> <p>①「自分の興味や関心がわかってきた」「進路の方向性を考えられるようになってきた」と回答した生徒の割合</p> <p>【自己評価における力の変容】</p> <p>②「自己活用力」が向上したと回答した生徒の割合</p> <p>③ワークシートや面談記録において、自分の興味・関心・特性と進路との関連を言語化した記述が見られるか</p> <p>【行動・記録に基づく客観的指標】</p> <p>④SSTや社会体験活動における講話・交流の事前/事後ワークにおいて、「自分との関係性」が明記された生徒の割合の変化</p>	<p>①興味関心(第1回:85%→第2回:81%)</p> <p>進路方向性(第1回:64%→第2回:57%)</p> <p>②自己活用力 63.3%の増加</p> <p>③「年間のスケジュールを立てて管理したり、計画を崩さず実行する事が出来た」「しっかりと計画を立てて、就職活動を無事クリアすることができた」という回答があった。</p> <p>④社会体験活動の事後シートに「プラス思考で目標に向けていろいろなことにチャレンジしていきたい」「今後の進路につながる情報や知識として活かせることを学ぶことができたと思います」という回答があった。</p>	B	<p>■ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進路の方向性に関する実感の低下への対応。</li> <li>単発的な活動を自己理解や進路選択に結びつける連続性の強化。</li> <li>興味・関心の把握を具体的な進路検討へつなげる支援の充実。</li> </ul> <p>■ 改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>活動ごとに「自己との関係」を振り返る機会を設け、記述の具体化を図る。</li> <li>年次を越えた系統的なキャリア指導を整理し、段階的に自己理解を深める。</li> <li>面談やログを活用し、興味・関心と進路選択を結びつける支援を継続する。</li> </ul>
		<p>【進路実現】 進路情報を取捨選択し、自分にとって納得できる選択をしようとしているか(論理思考力・目標遂行力)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各年次において5つの力成長ログ等を活用し、生徒自身が収集した進路情報をもとに考えを整理する機会を設ける。</li> <li>三者面談や日常生活を通じて、自己の希望や条件と照らし合わせながら、進路を検討する力を育成する。</li> <li>進路別(就職・進学・その他)に対応した具体的なガイダンスを実施し、情報収集と選択肢理解を促進する。</li> <li>企業・学校見学の事前学習や振り返りを通じて、情報の評価・活用方法を指導する。</li> <li>卒業生や社会人との交流会を実施し、進路の実例に触れることで比較・検討の視点を育成する。</li> <li>工業の授業と連動し、進路に必要なスキルや資格の情報を取得し、実際の習得活動(実習・課題研究・資格取得対策等)に結びつける。</li> </ul>	<p>【主観・意識に関する指標】</p> <p>①「進路選択に必要な情報を自分なりに集めている」「自分に合った進路を選ぶために、情報を比較・検討している」と回答した生徒の割合</p> <p>②進路選択に納得感を持っている」と回答した生徒の割合(4年次対象)</p> <p>【自己評価における力の変容】</p> <p>③「論理思考力」「目標遂行力」が向上したと回答した生徒の割合</p> <p>④振り返りで進路に向けた具体的な行動や判断プロセスが記述されているか</p> <p>【行動・記録に基づく客観的指標】</p> <p>⑤進路希望調査に基づく面談において、自らの選択に対して根拠や理由を説明できた生徒の割合</p>	<p>①進路情報(第1回:70%→第2回:59%)</p> <p>比較・検討(第1回:66%→第2回:54%)</p> <p>②進路の納得(6名中6名が納得している)</p> <p>③論理思考力 60%・目標遂行力 66.7%増加</p> <p>④「今年の夏までにアルバイトをすと決めてやること」ができた」「目標を決め、それに向けてどうしたら達成出来るかを考え行動し達成出来るようになった」という回答があった。</p> <p>⑤学校就職者の5名中5名が、面談時に選択の根拠や理由を説明できた。</p>	B	<p>■ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報収集・比較検討に関する意識の低下への対応。</li> <li>進路決定に至る過程を、より主体的・継続的に支援する仕組みの強化。</li> </ul> <p>■ 改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進路情報の整理・比較を行うワークを充実させ、判断過程を可視化する。</li> <li>面談やログを活用し、選択の根拠を言語化する機会を継続的に設ける。</li> </ul>
4	<p>【現状】 さいたまユースや地域イベント、中学校訪問を通じて地域との接点はあるが、連携先は限定的で実施頻度も少ない。また、学校の教育内容や方針が地域に十分に伝わっておらず、魅力や意図の共有が不十分な状況である。</p> <p>【課題】 学校の育成方針や教育の価値を地域と共有し、「ともに生徒を育てる関係」を築くためには、連携先の拡充と継続的な関係づくりが必要である。また、デジタル・アナログ両面からの発信力強化により、学校の魅力を効果的に地域へ伝える取り組みが求められる。</p>	<p>【地域連携】 地域との連携の質と量が向上し、継続的な協働体制を進められているか(対人協働力・課題解決力)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>さいたまユース等との既存連携を基盤に、関係機関・企業・団体との接点を拡充し、継続的な協働体制を構築する。</li> <li>地域団体との協働プロジェクト(例:課題研究による地域課題の分析・提案)を通じて、生徒が地域に貢献し、信頼関係を築く。</li> </ul>	<p>【客観的指標(量)】</p> <p>①新たに協働した地域団体・企業・公共機関の数(前年度比)</p> <p>【客観的指標(質)】</p> <p>②地域課題に関する課題研究や社会体験活動等の共同企画の実施件数</p> <p>③連携活動の実施後に得られた協働団体からのコメントやフィードバック</p>	<p>①課題研究にて、埼玉県立歴史と民俗の博物館との協働が新たに加わった。</p> <p>②共同企画実施数(R6:2件→R7:3件)</p> <p>③自然の博物館担当者より「幼稚園生が、ほねほねバズルに夢中になって遊んでいた」というコメントをもらった。</p>	B	<p>■ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>連携先の拡充と、単発で終わらない継続的な協働体制の構築。</li> <li>学校の教育内容や成果を地域へ効果的に発信する仕組みの強化。</li> </ul> <p>■ 改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既存の連携を基盤に、新規団体との接点づくりを計画的に進める。</li> <li>公開行事と説明会・体験入学を連動させ、参加後のフォロー体制を整備する。</li> <li>広報内容を整理し、本校の強みや育成する力を具体的に打ち出す。</li> <li>中学校訪問を戦略的に実施し、対象校と継続的な関係構築を図る。</li> </ul>
		<p>【広報・生徒募集】 学校の教育活動や特色が地域に伝わり、入学希望者の増加につながっているか(対人協働力・課題解決力)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化祭・体育祭・公開行事において、保護者や地域住民の参加機会を拡充し、学校の魅力や教育内容を体感できる場を提供する。中学生の来場を意識した構成とし、進学意欲の喚起につなげる。</li> <li>学校の教育方針や育成する力をわかりやすく伝える資料(学校案内・ポスター等)や媒体(ホームページ等)を整備する。</li> <li>本校の教育を本当に必要とする中学生に焦点を当てた中学校訪問を、計画的かつ戦略的に実施する。</li> </ul>	<p>【客観的指標(地域住民の参加状況)】</p> <p>①文化祭・体育祭等の来場者数(地域住民・中学生・保護者)と前年比較</p> <p>【客観的指標(広報資料・媒体の整備状況)】</p> <p>②学校案内・ポスター・活動報告資料の制作・更新履歴</p> <p>③学校ホームページの閲覧者数・更新頻度、内容の充実度</p> <p>【客観的指標(学校の認知・志願状況)】</p> <p>④中学校からの問い合わせ件数・説明会依頼件数の推移</p> <p>⑤入学希望者数の増減(前年度比)</p>	<p>①文化祭(R6:158名→R7:152名)</p> <p>体育祭(R6:44名→R7:43名)</p> <p>②新校用に学校案内を更新</p> <p>③約2,500件のビュー(5月～2月)</p> <p>④学校説明会(R6:23名→R7:26名)</p> <p>体験入学(R6:8名→R7:12名)</p> <p>⑤入学希望者(R6:15名→R7:11名)</p>	B	<p>■ 次年度への課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>来場機会を志願行動につなげる導線の強化。</li> <li>広報活動の量だけでなく、対象層への効果的な訴求の工夫。</li> <li>学校の特色や育成方針を、明確かつ一貫して発信する体制づくり。</li> </ul> <p>■ 改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公開行事と説明会・体験入学を連動させ、参加後のフォロー体制を整備する。</li> <li>広報内容を整理し、本校の強みや育成する力を具体的に打ち出す。</li> <li>中学校訪問を戦略的に実施し、対象校と継続的な関係構築を図る。</li> </ul>

・全体として、アンケート結果や、数値がどうなれば A 評価になるのか、などを定めておく必要があるのではないかと。

・全日制では、生徒の意見を反映し、行事やルールを改定していく取り組みを行っている。そのために、まずはどうすれば変えられるのか、という物事の変え方から学んでいる。

・保護者への進路に関する情報提供と、保護者も含めて進路意識のアップデートが必要ではないかと。  
・就職か進学かを進路決定の直前まで悩んだ体験を踏まえ、これらのメリット、デメリットなどを知る機会がほしかった。  
・身近な先輩から話を聞く機会があるとありがたいと感じる。  
・生徒の成長に役立ちたい企業人は多い。学校から声をかけ、企業人と関わる機会を多く設けてほしい。

・入学者を増やすことより、定時制の教育を必要としている層に届けることが重要ではないかと。  
・不登校や発達障害で悩んでいる中学生への情報提供は、フリースクールや放課後デイなどに行うと効果的かもしれない。